

# 巻 頭 言

心理福祉学部長

蓮 花 一 己

心理福祉学部は平成16年4月に誕生した帝塚山大学でもっとも新しい学部です。心理学科と地域福祉学科という人間に直接関わる2学科から構成されており、地域住民のこころと生活に密接に結びついた他に類例を見ない学部です。現代社会における人間のケアとサポートに関する専門人を育成することが我々の使命です。

21世紀は、人間を大切に作る世紀であるという共通認識が生まれています。「ものの豊かさ」から「心の豊かさ」へと、人々の求める豊かさへのイメージも変わりつつあります。その一方で、人間の尊厳を脅かす児童虐待や犯罪などの社会問題だけでなく、事故や災害、自殺などの多様な社会リスクも深刻さを増しており、その解決が求められています。また、高齢者や障害者に住みやすい街づくりや法律や経済を含む支援システムの構築も現代の日本社会の重要な課題です。

心理学の専門家の場合、単に心の病理や社会問題を理解するだけでなく、いかにして人々へのケアとサポート体制を創り出すかが問われています。また、問題が深刻化してから対応するだけではなく、電話相談やカウンセリングなど市民全般への予防的な取り組みが必要です。社会福祉分野でも、施設中心のケアから、在宅介護やデイケアなどを含む地域全体での「地域ケア」の取り組みが活発になってきました。京阪奈地域における市民の自立支援を図るために、心理福祉学部では、心のサポートと地域ケアに精通した専門家やリーダーを育成するものです。

心理福祉学部では、講義による知識伝達教育を超えて、ロールプレイングやカウンセリングの実習、社会福祉援助技術演習、介護技術演習など多くの実習科目を設定して、心理技法や社会福祉援助技術を習得させようとしています。専門人育成のためには、理論と実践の両方が必要であり、そうした内容が含まれている点が本学部の特色であると言えます。平成17年度には「心のケアセンター」を設置して、心理臨床相談だけでなく、不登校児童への支援、子育て支援などのテーマについて活動を開始します。さらに、地域福祉学科では、京阪奈地域での市町村社会福祉協議会、老人福祉施設、児童相談所、障害福祉施設が実習の協力施設として準備されており、今後学生の学外実習が行われます。

しかしながら、いかなる優れた研究や実践的活動を実施しても、それらが公表されなければ進歩はあり得ません。本紀要を通じて、本学部教員が実施している最新の研究や実践活動が公表され、多くの関係者の建設的な批判を受けることにより、さらに洗練され有益な研究や活動へと進化することが望めます。本学部が21世紀における京阪奈地域での心理と地域福祉のセンターとして今後発展できるように我々は絶えず努力します。そして、本紀要の出版を契機として、心理福祉分野で行われている内外の研究者との学問的交流を図り、多種多様な実践的活動を融合させることで、新しい心理福祉の地平を開くという夢を実現するために共に歩んでいきましょう。

2005年1月13日